

なごやか地域福祉 ニュース

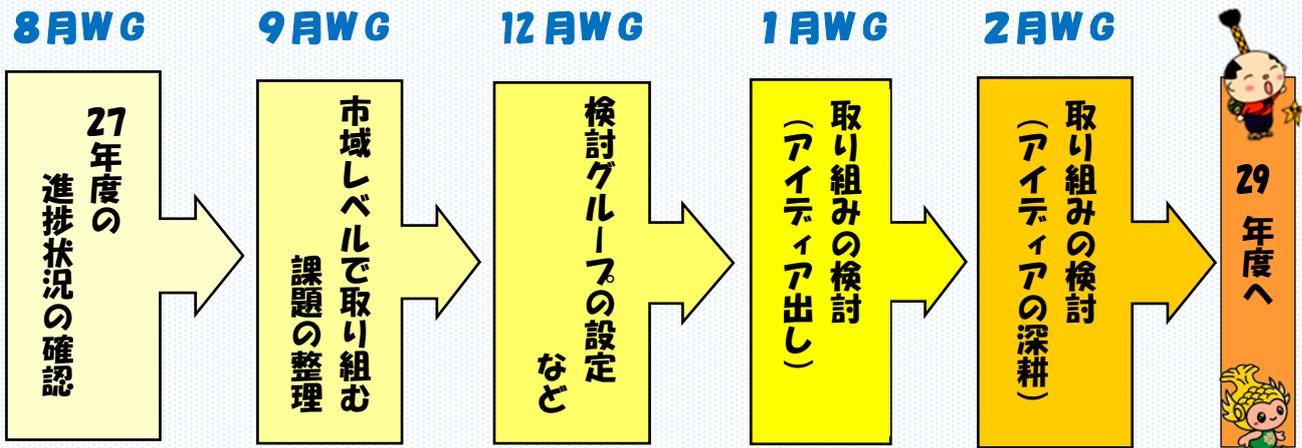


発行：なごやか地域福祉2015推進事務局

平成27年度にスタートした『なごやか地域福祉2015』（計画期間：平成27年～31年）も今年度で2年目に突入！！「誰もが住みなれた地域で自分らしく安心して生活できる地域社会の実現」を目指して、平成28年度は、ワーキンググループを中心に、前年度実施した取り組みの進捗状況や課題を整理し、3つの取り組むべき方向性と6つの「方策」に基づいて、行政機関はじめ関係各所が連携協働しながら新たな取り組みを検討していきます。



28年度のワーキンググループ(*)はこのような流れで進めていきます



計画では、地域福祉の担い手の確保や個人情報情報の取扱いとか今後検討すべきことがいくつかあげられているよね。



関係各所で取り組みを進める中で、いろいろ困っていることや連携が必要なものも出てきているはずよね。



一緒に協力して取り組みれば解決できることもあるんじゃないかな？



28年度は上記のほかにこんなことを計画しています。

- ◆11月 地域福祉に関する懇談会
- ◆1月 地域福祉フォーラムの開催



※ワーキンググループ (WG)
「なごやか地域福祉2015」の取り組みに関わっている名古屋市と市・区社会福祉協議会の関係部署の職員で構成する検討チームで、主に計画の進行管理や地域福祉を進めていく上での連携のあり方について検討を行っています。



それぞれの地域での「連携・協働」の取り組みを紹介します！



＜正色公園清掃活動の様子＞

地域とともに歩む施設づくり

中川区にある「社会福祉法人さくらんぼの会」は障害者の笑顔と夢ある未来を創ることを法人の理念として障害の種別、軽重に関わらず、互いに助け合いながら働き、学び、生活をする場となる施設づくりを進めている施設です。

経理管理センター課長の麻生さんにお話しを伺ったところ、法人設立から20年が過ぎましたが、当初から「**地域とともに歩む施設づくり**」を意識して、地元の皆さんや商店街、学校などとふれあい・交流する機会をたくさん作りたいて思っていましたと話されます。

現在地元と連携して行っている活動に、2013年度から始めた正色公園の清掃活動があります。当初は、公園愛護会から委託を受けて施設の職員や利用者さんで始めた活動ですが、自分たちだけの活動ではなく、清掃活動を通じた地域とのふれあいができないだろうかと考え、地元の小学生とともに取り組もうと学区や学校の理解のもと、始めました。現在では、清掃活動のPRなどの協力もあり、現在では、毎回約10人ほどの地元の子どもたちが参加してくれるようになり、リピーターの子どもたちも出てきたとのこと。また、清掃活動後は、紙芝居などの企画を通して、自然なふれあい・交流の中で地域と障害者との交流も深めているそうです。

麻生さんは、『施設と地域の連携や協働は一朝一夕にはできないと実感しています。お互いの状況を理解しあいながら、コツコツと関係づくりを進めて、何でも言ってもらえる関係になれば』と話されます。さくらんぼの会は、今では地域の一員として、地元の方からありがたいお叱りのお言葉も含めてたくさんのお声がかかるそうです。

地域で見守り、助けあう機運を高める大学との連携



中村区では、認知症の人とその家族を地域で支える仕組みづくりを進める取り組みの一環として、「同朋大学」の新入生を対象に、オレンジカレッジと称して、認知症サポーター養成講座等を実施しています。この事業は、中村区地域包括ケア推進会議認知症専門部会事業及び中村区社会福祉協議会第3次地域福祉活動計画に位置付けて実施されています。

平成28年度は、講義形式のパートⅠと活動体験のパートⅡの2本立てで行われ、パートⅠは100名程度の1年生の参加を得て、6月17日（金）に開催されました。認知症サポーター養成講座では、地域で認知症高齢者の方を見かけたら、どのように声をかけるかなど認知症に関する基本的な知識をDVDや寸劇を交えて分かりやすく講義がされました。講義後は、認知症サポーターの証であるオレンジリングが配布されています。

また、この取り組みでは、認知症のことだけではなく、中村区社会福祉協議会が推進する地域福祉に関する啓発も併せて実施しています。パートⅠでのミニ講義に続き、秋には、パートⅡとして、ボランティア活動や高齢者サロンの見学など、学生が実際の地域福祉活動を体験し、より地域福祉への理解を深める取り組みを行う予定です。これらをきっかけとした今後のさらなる地域連携が期待されます。



＜オレンジカレッジパートⅠの様子＞